

事業所における自己評価結果（公表）

公表：2021年3月31日

事業所名 児童発達支援センター ガゼルの森

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	9	6	・子ども達が過ごしやすいよう危ないものは手の届かないところに置くなど工夫している。	・コロナ対策、身体障害児への配慮が不十分であると感じる部分もあるため、対策や配慮方法を検討していく。 ・会議で部屋を使用しているといざ何かあって使いたい時に使える部屋が少ないと感じることもあるため、部屋の使用を調整したり、クールダウン等に使用できる場所の確保を検討していく。 ・人数的には適正でも子どもの状態により部屋が足りない時があるため、使用できる部屋の確保や調整を行っていく。 ・適切なところと適切と感じないところがあるため、活動内容や子どもの状況に応じて使用する部屋や場所を検討し、安全に過ごせるようにしていく。
	2	職員の配置数は適切であるか	3	12	・急な職員の欠席に対しても、各部署の応援体制ができています。 ・子どもの人数に対して職員の人数は適正。 ・担任だけではまわせていない時多々あり、職員が煮詰まる前にお互いにフォローし合っている。	・足りないと感じる時間帯があるため、クラス間で職員配置を調整したり、活動や子どもの様子に応じてフォロー体制を汲みよりにしていく。 ・子供に対しての大人の数は法定人数で合っているが、ギリギリの人数のため、急な休みなどがあると人数が足りないと感じることがある。また、手厚い療育や保育をするにはもう少しフリーで動くことができる人がいると安全に取り組めることが増えるため、人員の確保や職員の質の向上を目指していく。 ・人数比は適正であるが(子どもと大人の)子どもの発達や特性に応じてマンツーマン対応したい子どももいるため、1クラスにつき4人職員がいればもっと手厚い支援ができると感じる。人員の確保を念頭に置きながらも、職員の人数に捉われず、クラス間で職員配置を工夫したり、活動内容を見直す等、職員一人一人の知識や技術の向上を行うことで手厚い支援が行えるようにしていく。 ・欠勤が出ると足りない人数でまわしたり、支援の職員が保育にフォローに行ったりすることも多いため、フリーの職員を確保できるように検討していく。 ・職員研修がある時の保育士補充が必要と感じる。子どもの安全を確保しながら職員の知識や技術を向上できるよう、職員配置の調整、人員確保を検討していく。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	9	6	・療育クラス内にトイレが設置されていたり、エレベーターの設置もきちんとされている。 ・エレベーター設置は良いと思う。 ・視覚支援(写真カードやビニールテープの線など)を使ってより生活しやすい環境を作れていると感じる。 ・視覚支援が多く、伝わりやすい。多目的トイレに障害に応じたトイレがあることが良い。	・子供の手の届くところにスイッチや鍵があるため、目隠しをしたり、触らないような配慮をすることで過ごしている。 ・クールダウンできる部屋があると良いため、部屋使用の調整や場所の確保等を行っていく。 ・ホワイトボードが気に入り、触ろうとしたり、ホワイトボードの位置が高すぎ子どもが見にくいと思うこともあるため、ホワイトボードの高さが動く(可動式)ようにした方が良いと感じる。使用しない時には目隠しをするなど、工夫を行いながら環境整備の検討を行っていく。ホワイトボードが上下に動くようになると使いやすい見やすい。 ・2部屋を合同にして活動を行うと、子どもや職員の行き来が多く、落ち着きがないように感じることもあるため、活動内容の見直しや、環境設定の検討を行っていく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	11	4	・玩具等の配置変えたりしている。 ・日々の清掃で清潔な空間を意識している。 ・3Sを心掛けている。 ・コロナの関係で毎日消毒をしており、清潔であると感じる。 ・椅子や水道、トイレなど子ども達が使いやすいようにしてある。 ・清掃がきちんと行われ、綺麗に使用することができる。 ・子ども達に危険が及ばないように整頓されている。	・トイレの配置やコロナ対策などの感染予防について不十分な所があるため、マニュアルの確認や清掃方法の再検討を行っていく。 ・空いている部屋が少ないため、活動に合わせて使える時と使えない時がある。使用できる部屋の調整や場所の確保を行っていく。 ・部屋の鍵や電気のスイッチ等が子どもの手が届く位置にあり、危ないと思う事が多々あるため、目隠しをしたり、注目を逸らしたりできるように工夫していく。 ・不潔とは言わないが、もう少し清潔にすべきところはあると感じることもあるため、丁寧な清掃を心掛け、清掃の頻度を調整していく。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	10	5	・職員会議や職員研修を定期的に行うことができている。 ・それぞれの職員がPDCAを意識している。 ・こういった評価表や会議などが行われている。 ・月1回クラス会議を開き改善点や目標等を話し合い、それについての振り返りも行っている。	・子どもの情報共有ができていない部分があるように感じることもあるため、クラス会議や報告書等の共有を図り十分な伝達が行えるようにしていく。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげ事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	15	0	・連絡ノートや面談にて保護者と話す機会を設け改善に努めている。 ・毎年行っている。また、連絡ノートや面談等でも情報交換を行っている。	・報告書を作成し、職員に周知している。 ・改善点や疑問点等がある時には迅速に対応できるようにしている。
	7	保護者等向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	15	0	・評価の結果等、必ず回覧ファイルで目を通すことができている。 ・行っている、公開することによって改善につながる。 ・ホームページを職員の意見を聞くなどしながら作り替えたり、お便りなどでも公開したりしている。	・職員全体にホームページ上にアップしていることを周知することで事業所評価の内容や存在を定着させていく。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	9	2	・第三者からの意見を取り入れ、会議等で共有し改善につなげている。 ・毎年、自己評価にプラスして主任や園長からの評価を頂いている。	
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	12	3	・定期的開催している。テーマが毎回違い内容が幅広く充実している。 ・月に1度、研修の時間を設けている。 ・リモートを利用し、ガゼルの森でも研修を受けることができている。 ・毎月研修を行い、新人研修、中堅研修も行われている。	・研修の機会は月に1回何とか確保しているが、研修の内容がサービスの質の向上につながっているのかが疑問に感じる。もう少し現場業務に活かせる内容を希望する。 ・今年度に入り研修の機会は月1回組んでもらっているが研修の内容が良くない為、職員の資質向上にはなっていない。 ・多すぎる。 ・毎月研修の時間をとっているが、業務でない内容のことが多い。
適切な支援	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	15	0	・日々の生活での課題や保護者の意向を取り入れ作成している。 ・子どもそれぞれの発達を確認し、保護者と日々話した中から計画を立てている。 ・保護者にも記入していただき、それをふまえて園生活の様子と照らし合わせながら支援計画を立てている。	
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	15	0	・アセスメントシートを作成している。 ・定期的にあセスメントシートに記入するようにしている。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容	14	1	・その状況や場合に合ったものを判断し、設定されている。 ・保護者から聞き取ったニーズや園生活で感じたニーズをふまえて発達に合った支援内容を支援計画に反映するようにしている。	・家族支援については不十分と感じることもある。家庭の状況の聞き取りや、必要に応じた面談等を行うことで家族支援に繋げていく。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	14	1	・支援計画を元に日々の生活を取り組んでいる。 ・計画を作成したのち、職員で確認し支援を行っている。 ・支援計画を定期的に見直すようにしている。	・できている部分が多数だが、できていない時があると感じることもあるため、日々の活動の振り返りや、支援目標の見直しを行うことで十分な支援に繋げていく。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っているか	13	2	・活動プログラムの立案、決定事項を回覧し全職員が周知できるようにしている。 ・よく話し合いをしています。 ・クラス間で話し合い決める。 ・クラス会議を毎月開き決めている。 ・職員同士で相談する時間を設けて行っている。	・話し合いの場を設けることが難しい時もあるため、業務や時間の調整を行っていく。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	14	1	・音、運動など1週間の中で交代しながら行っている。 ・子ども達の今見られている姿から活動を考えている。 ・よく話し合いをしています。 ・毎回同じ活動にならないよう意識している。 ・たくさん活動を考え、試行錯誤している。 ・日々同じ流れのもと取り組み、領域を変えている。	

の提供	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか	15	0	<ul style="list-style-type: none"> よく話し合いをしています。 その子の状況、特性に合わせて計画を立てることができている。 行事や活動によっては集団で行う機会を取り入れるようにしている。 	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	13	2	<ul style="list-style-type: none"> どのような内容にするかなど細かい打ち合わせもしている。 前日や当日の朝、職員で1日の流れを確認している。 よく話し合いをしています。 普段は自然な流れで役割分担ができている。初めて取り組み活動や行事の前には話し合って確認している。 普段の保育では自然の流れで行っているが、行事前は特にしっかり話し合っている。 開始前には難しいこともあるが、職員間で共有し取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いはしているものの時間が足りないこともあるため、業務や時間の調整を行うことで十分な打ち合わせを行えるようにしていく。 クラス職員全員揃っての会議が難しい、全員が情報共有できていない部分もあるため、役割分担を行うことでクラス会議以外にも情報の共有の場を設けることで情報伝達を行っていく。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	13	2	<ul style="list-style-type: none"> その日の活動について話し合いをするようにしている。 よく話し合いをしています。 クラス会議等で行っている。 その日の活動での改善点を話し合い、次に活かすようにしている。 職員の勤務時間の違いや療育後の仕事内容(バス乗る、預かり、フォロー等)の時間によって毎日打ち合わせをすることが難しい。 が、「こうだったね」「こうしたいね」と簡単に話すことは行っている。 振り返りとして会話し、子どもについて共有している。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎日の打ち合わせ、振り返りを行う時間がとれないことも多いため、情報共有の方法を検討していく。 話し合いはしているものの時間が足りないこともあるため、業務や時間の調整を行っていく。 クラス職員全員揃っての会議が難しい、全員が情報共有できていないこともあるため、会議以外の打ち合わせを行うなど、情報共有のツールや方法を検討していく。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	15	0	<ul style="list-style-type: none"> クラス会議も定期的に行い、個々に合わせた支援の検証や改善を行うことができている。 ケースや日案等に記録を残している。 ケース記録、所見等で子どもの発達に関しての記録をとっている。 	<ul style="list-style-type: none"> クラス職員全員揃っての会議が難しいことも多いため、会議以外の情報共有の場や方法を検討していく。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	13	2	<ul style="list-style-type: none"> 年に2回保護者とモニタリングを行っている。 ケース記録や所見をもとに計画の見直しを行うようにしている。 保護者との情報交換や面談を通して行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> クラス職員全員揃っての会議が難しいことも多いため、会議以外の情報共有の場や方法を検討していく。 作成後の見直しを行う機会が少なくなっているため、定期的な確認や打ち合わせを行うようにしていく。
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	15	0	<ul style="list-style-type: none"> 主任や園長が参加することでより良いものになっていると思う。 クラス職員1名、主任1名が参加し、事業所の方と話をしている。 	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	15	0	<ul style="list-style-type: none"> たくさんの機関の協力を得て保護者に提供していると思う。 	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	13	2	<ul style="list-style-type: none"> 行われている。 	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて医療機関のケアワーカーと連絡を取ったり、保護者からの聞き取りを行うことで協力体制を取るようになっている。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	13	2	<ul style="list-style-type: none"> 整えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて医療機関のケアワーカーと連絡を取ったり、保護者からの聞き取りを行うことで協力体制を取るようになっている。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図って移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	15	0	<ul style="list-style-type: none"> 幼稚園交流などでお互いに連絡をとっている。 幼稚園交流や幼稚園の先生方の見学、連絡会などで情報共有、情報交換を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて訪問したり、連絡会に参加したりしている。
	26	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	12	3	<ul style="list-style-type: none"> 研修を受ける機会が何度かある。 	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	14	1	<ul style="list-style-type: none"> 同じ施設内に保育部もあり、同じ園で遊べることで、また交流を通して活動する機会が大変多い。 保育部と交流を行っている。行事も一緒に行っている。 幼稚園交流はもちろん、保育部と支援部の交流を行っている。 さくらんぼ交流や行事を定期的に行っている。 	
	29	(自立支援)協議会や子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	7	8		<ul style="list-style-type: none"> 部会の在り方について、もう少し積極的に発信していく。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	15	0	<ul style="list-style-type: none"> 連絡ノートに記入したり、お迎えの際に伝えたりしている。 	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っているか	13	2	<ul style="list-style-type: none"> 在宅支援やペアレントトレーニングの演習の案内を出している。 	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	14	1	<ul style="list-style-type: none"> 入園時や説明会でやっている。 	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	15	0		
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	15	0	<ul style="list-style-type: none"> お話しているのをよく見かけます。 相談(ばれっと)の活用や連絡ノートを活用して行っている。 	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	15	0	<ul style="list-style-type: none"> 保護者会を定期的に開催している。 	
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	15	0	<ul style="list-style-type: none"> 職員体制を調整することで相談を受けられるようにしている。 	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	15	0	<ul style="list-style-type: none"> ガゼル便りや療育計画等を配布している。 	

	38	個人情報の取扱いに十分注意しているか	15	0	・情報が漏れないように鍵付きのロッカーに入れたり、シュレッダーで処分したりしている。	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	15	0	・保護者の少しの悩みを受け、共有している。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	10	5		・新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点より、事業の運営を縮小して行っている。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	15	0	・月に1回避難訓練を行い、子どもも職員も対応できるようにしている。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	15	0	・月に1回避難訓練、年2回の引き渡し訓練。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	15	0	・症状のある子どもを職員に周知し対応を知らせている。(その都度行っている。)	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	15	0	・日々、確認のもと提供している。 ・アレルギー児対応のマニュアルがあり、研修も行ったことがある。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	8	7	・園内、園外での事故やヒヤリハットの情報が回覧される。 ・ヒヤリハットをまとめたものがある。	・ヒヤリハットの報告や気づきが少なることもあるため、定期的に事例の確認や報告の促しを行うようにしていく。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	13	2	・研修や会議等で子どもへの対応の仕方を見直している。 ・研修にて行っている。	・研修はしているが、内容が介護施設のため、事業所に合っている内容のものを学ぶ必要性を感じる。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	13	2		・危険回避についての記載については、二の足を踏んでいる節が事業所全体から感じることもある。保護者には口頭、必要に応じて書面で了解を得るようにしている。